

保育施設における感染症拡大防止を目的としたオムツ処理方法に関する研究

著者	三浦 真希子, 澤村 暢, 坂本 秀生
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	13
ページ	29-29
発行年	2019-10-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00001080/

4-B-8

保育施設における感染症拡大防止を目的としたオムツ処理方法に関する研究

三浦真希子¹⁾澤村 暢¹⁾ 坂本秀生¹⁾

【背景・目的】現在、保育施設における使用済みオムツの処理方法については国や自治体で明確な規定はない。不衛生な使用済みオムツを家庭に持ち帰る場合、病原微生物による感染拡大のリスクが高まることが予測される。本研究では、使用済みオムツを持ち帰りにすることによる施設環境の汚染状況を調査し、感染症拡大防止につながるオムツ処理の方法を検討することを目的としている。我々は、これまでの研究で、おしりふき用ウェットティッシュを複数枚重ねて使用しても高い確率で手指が汚染していることを確認している。

【活動内容】パイロット調査として保育施設3施設を対象に、蛍光液を便と見立てたオムツ交換時の汚染状況調査を実施した。手袋を装着した手指に蛍光液を付着させた状態で、保育士にオムツ交換を実施してもらい、作業後に紫外線ランプで汚染箇所を確認した。持ち帰る決まりの施設においては、オムツの外側、保存用のビニール袋の入り口付近及び、処理過程でオムツを置いた場所に汚染が認められた。一方、処分を業者に依頼している施設では、汚染したオムツを一時的に置くことなくゴミ箱に入れるため、環境の汚染が認められなかった。今後は施設数を増やして検討を行う予定である。

【成果・考察】オムツを持ち帰る施設では、個人のボックスに収納するまでの過程で環境が汚染され、感染症拡大の原因となり得ることが考えられた。使用済みオムツの業者依頼、施設内でのオムツ処理のマニュアル化及び、定期的な再確認が必要不可欠であると考えられた。本研究は、私立ブランディング事業「地域子育てプラットホームの構築を通じた All-Win プラン」の一環として実施した。

1) 保健科学部医療検査学科